



特別ワークショップ

戦争詩と愛国詩 一戦中から戦後『荒地』まで

戦争を素材にした<戦争文学>は世界各国に存在する。また戦争英雄等の愛国心を讃える文学も創られてきた。しかし日本の場合、詩歌の方では<戦争詩=愛国詩>という図式が広く知れわたっている。そこで、今回のワークショップでは、<戦争文学>としての<戦争詩>とプロパガンダとしての<愛国詩>を、特に前者の成立と後者への転換に重点を置いて論じたい。さらに同時期の鮎川信夫と敗戦期の詩誌の考察を通じて戦後詩までに論点を広げていきたい。



【報告】 徐載坤(韓国外国語大学校)

【コメント】 逆井聡人(東京外国語大学)

【日時】 **6/5** (火) 18時～

【場所】 総合文化研究所
(研究講義棟 4F 422 教室)

一般公開 / 申し込み不要 / 入場無料